



三井海洋開発株式会社
第39回 定時株主総会 事業報告

2024年12月期 事業の成果と経営成績

EPCI事業

<既存建造工事>

- 2023年に受注した3件の大型建造工事案件（Bacalhau、UaruおよびRaia）の順調な進捗
- コロナ禍の影響を大きく受けた旧EPCIプロジェクトが2023年までに完工
- Bacalhau FPSOがブラジルに向け出港（2025年3月時点ブラジル到着済）



Bacalhau FPSO

<生産開始>

- Sangomar FPSO 原油生産を開始



Sangomar FPSO

<新規受注>

- Gato do Matoプロジェクトについては、2024年にシングルソースでのFEEDを受注
→ 2025年3月 EPCIおよびO&M契約をShellより正式受注

チャーター事業 / O&M事業

- これまでに実施した大規模修繕効果等より既存船の操業率改善、および、新規O&Mサービス開始による収益上積

チャーター / O&M フリートのアップデート (サマリー)

古い契約から新しい契約への置き換えが進捗

OLD	● サービス終了	
	Fluminense	2024年6月にO&Mサービス終了
OLD	● 売却完了/売却予定	
	MV12	チャーター契約終了、2024年11月に用船者に売却完了
	MV10	チャーター契約終了、2025年2月に用船者に売却完了
	● 撤収作業中	
MV18	生産終了、撤収作業を2024年1月に開始	
MV20	2024年12月に生産終了、撤収作業を2025年1月に開始	
NEW	● サービス開始	
	Sangomar	2024年6月にO&Mサービス開始
	● 契約延長	
	MV17	2024年12月にチャーター契約を2026年まで延長（1年延長）
MV22	2025年1月にチャーター契約を2030年まで延長（5年延長）	

フリートUptime¹

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
97.7%	98.7%	96.4%	97.9%	98.5%	97.6%	98.7%

注記：1. 操業中FPSOの稼働率の中央値



売上収益

4,186百万米ドル

- 上方修正後の通期業績予想に対して97%の着地
- 前年同期比611百万米ドル (+17%) の増加
- 過去最高の売上収益

当期利益

220百万米ドル

- 上方修正後の通期業績予想に対して110%の進捗
- 前年同期比123百万米ドル (+128%) の増加
- 過去最高益

調整後 EBITDA

328百万米ドル

- 前年同期比109百万米ドル (+50%) の増加

格付情報 (Fitch)

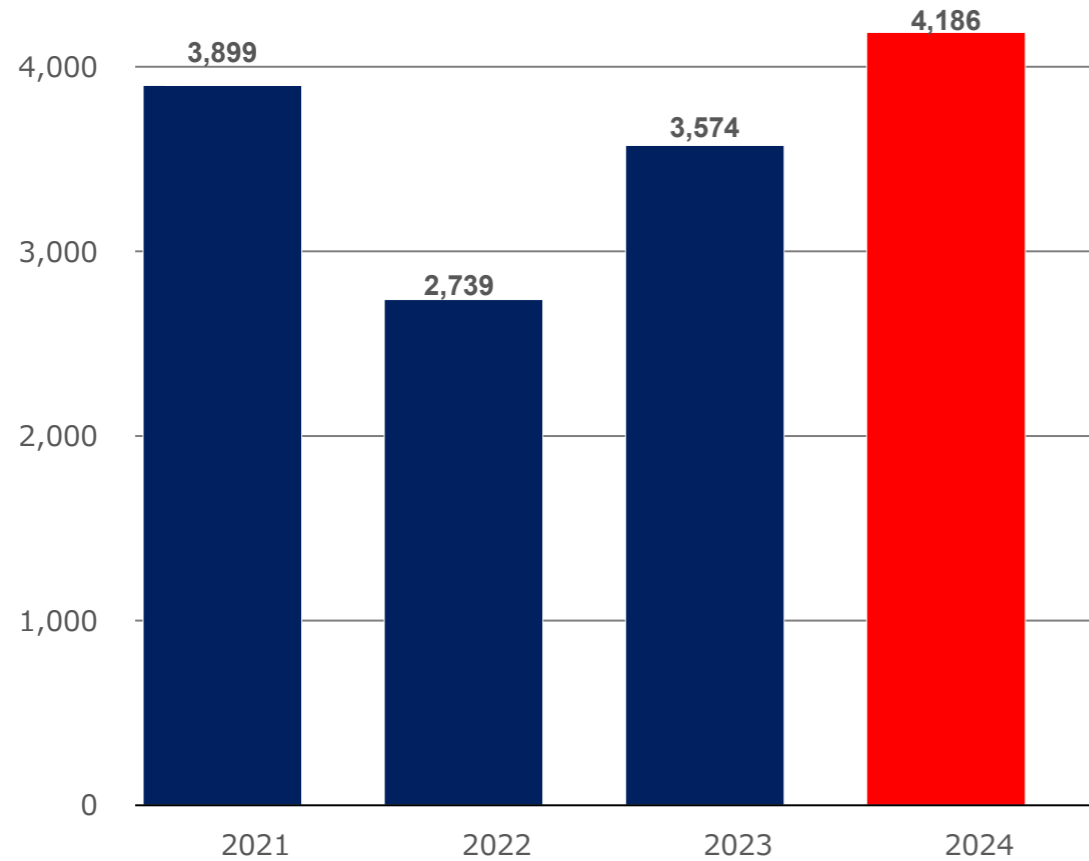
BBB-/Positive



**EPCI、チャーター、O&M事業の3つのサービス部門
にて業績順調に推移**

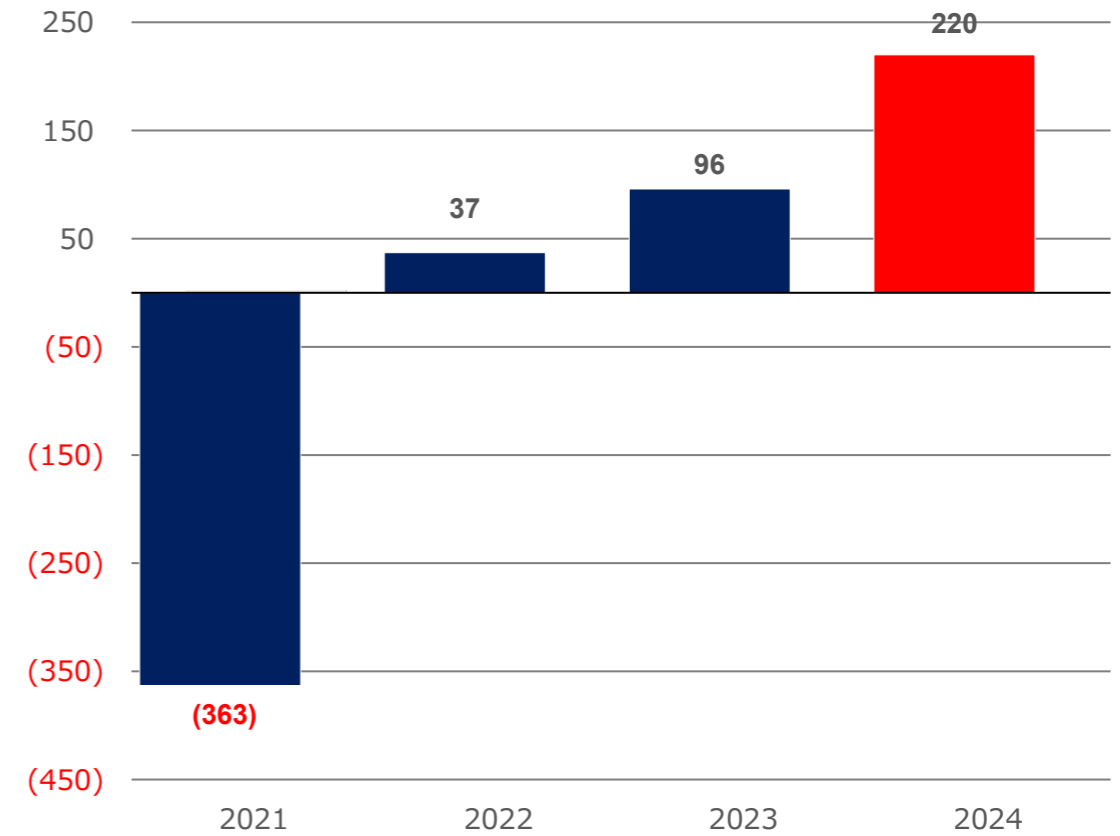
売上収益

(百万米ドル)

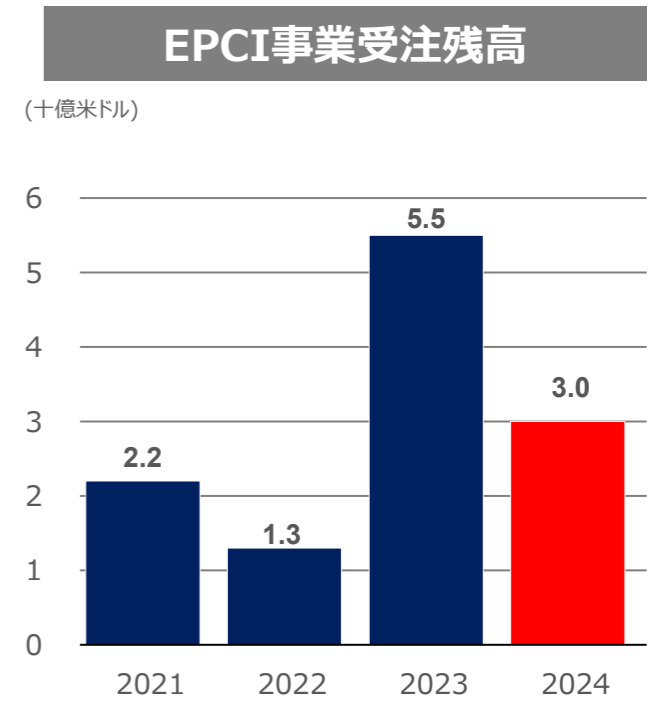


当期利益（損失）

(百万米ドル)

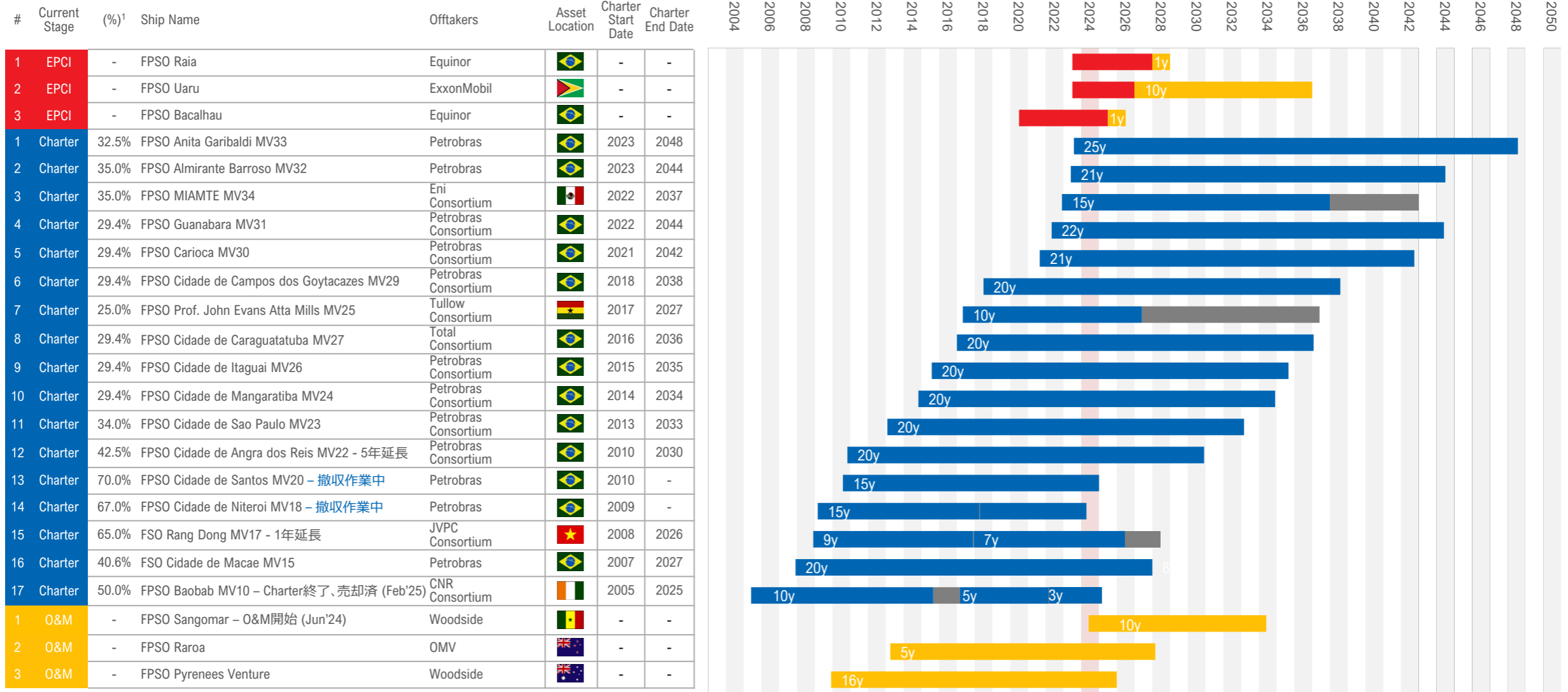


	FPSO Bacalhau	FPSO Uaru	FPSO Raia
顧客	Equinor	ExxonMobil	Equinor
契約形態	EPCI + Short term O&M	EPCI + O&M (10年)	EPCI + Short term O&M
生産開始 (予定)	2025年	2026年	2027年
鉱区	Bacalhau	Stabroek	BM-C-33
所在地	ブラジル	ガイアナ	ブラジル
水深	2,027 m	1,690 m	2,900 m
貯油能力 生産量	2,000,000 bbls 220,000 bopd 500 mmscfd 	2,000,000 bbls 250,000 bopd 540 mmscfd 	2,000,000 bbls 125,000 bopd 565 mmscfd



進行中プロジェクト

2024年12月末時点



<FEED案件>

- Gato do Matoプロジェクトについては、EPCIおよびO&M契約の受注に向け、シングルソースでのFEEDを実施中

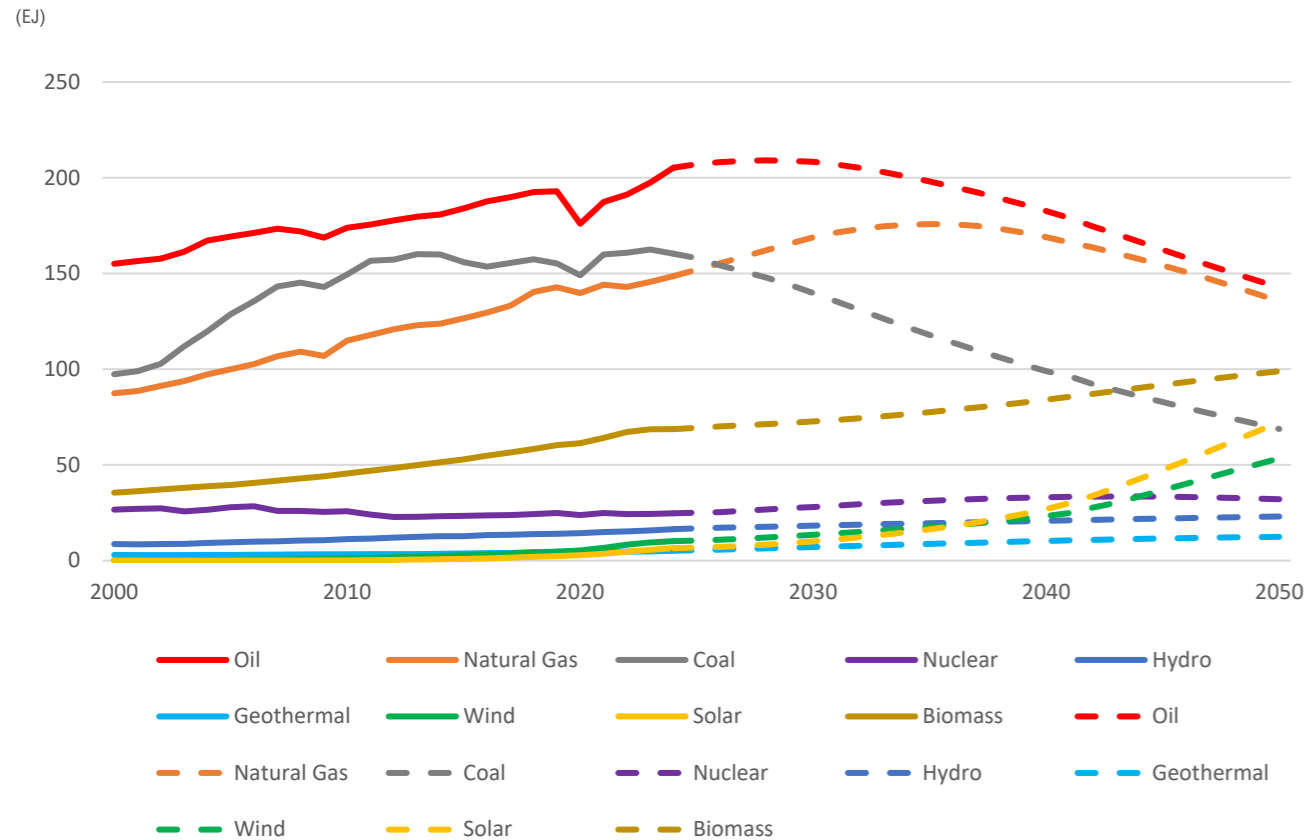
注記：
 (%) 当社のグループ会社の出資比率（持分法適用会社）

- EPCI 期間
- Charter 確定期間
- Charter オプション期間
- O&M 期間

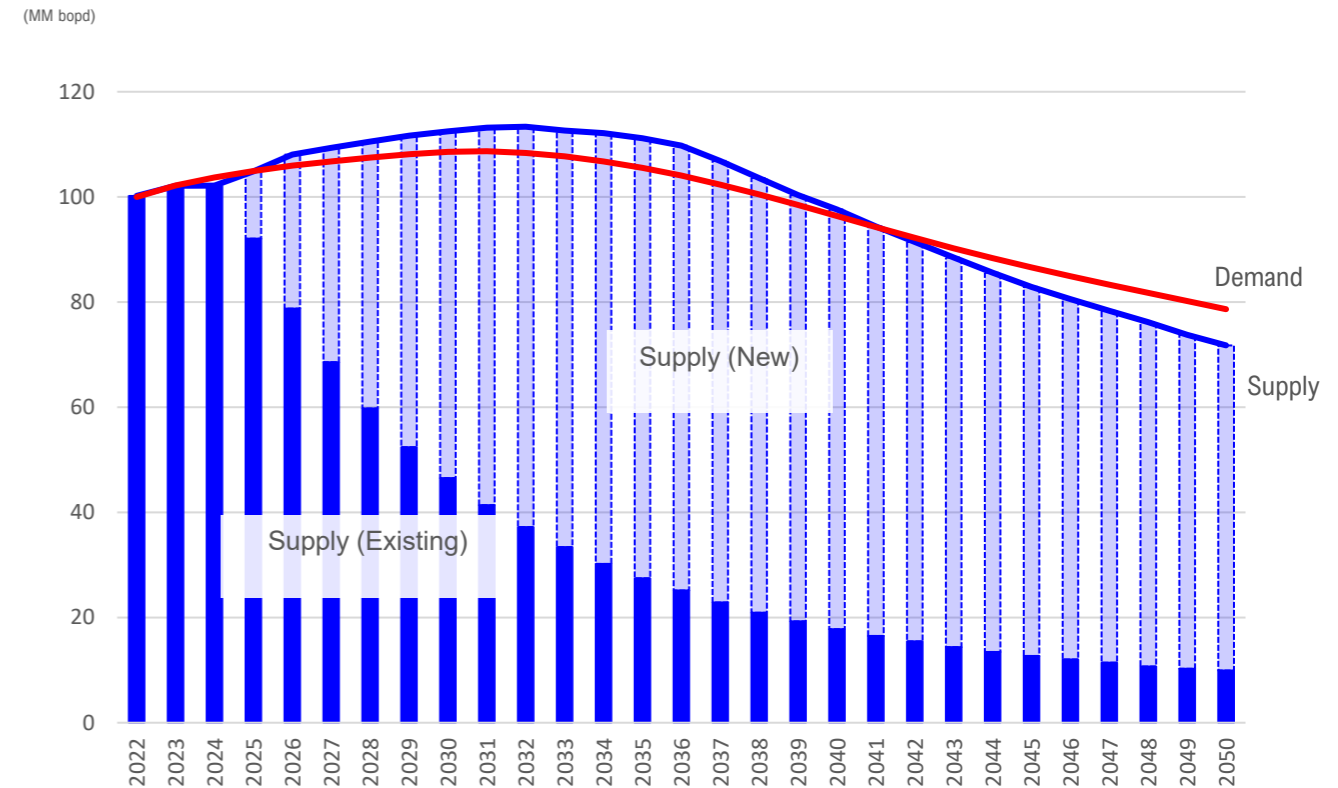
事業環境および今後の見通し

- 代替エネルギーの供給は増加する見込みながら、石油は今後も主要なエネルギー源と予想

エネルギーの種類別供給量¹



石油の需要と供給¹



1. 出所: Rystad Energy December 2024

今後の見通し

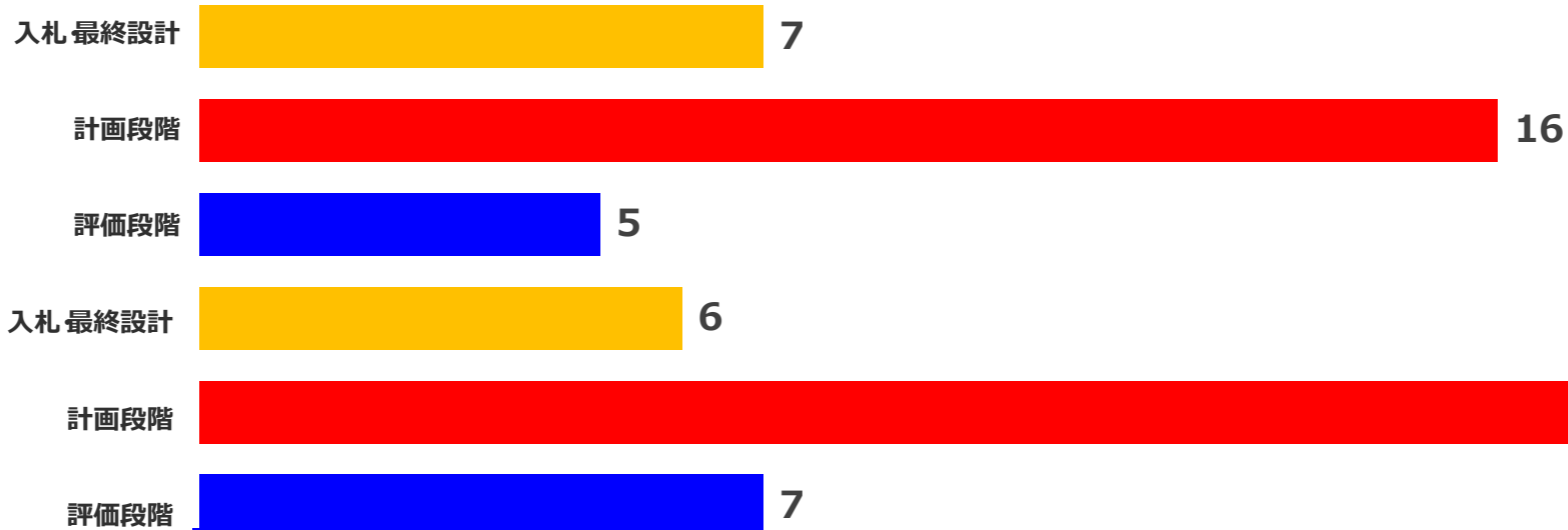
事業環境と豊富なグローバルパイプライン



- FPSOの案件数は引き続き豊富
 - 当社が得意とする超大水深 (2,000m超)に多数存在
 - 豊富な実績を持つ中南米、西アフリカにも多数存在

水深別パイプライン

浅海
28



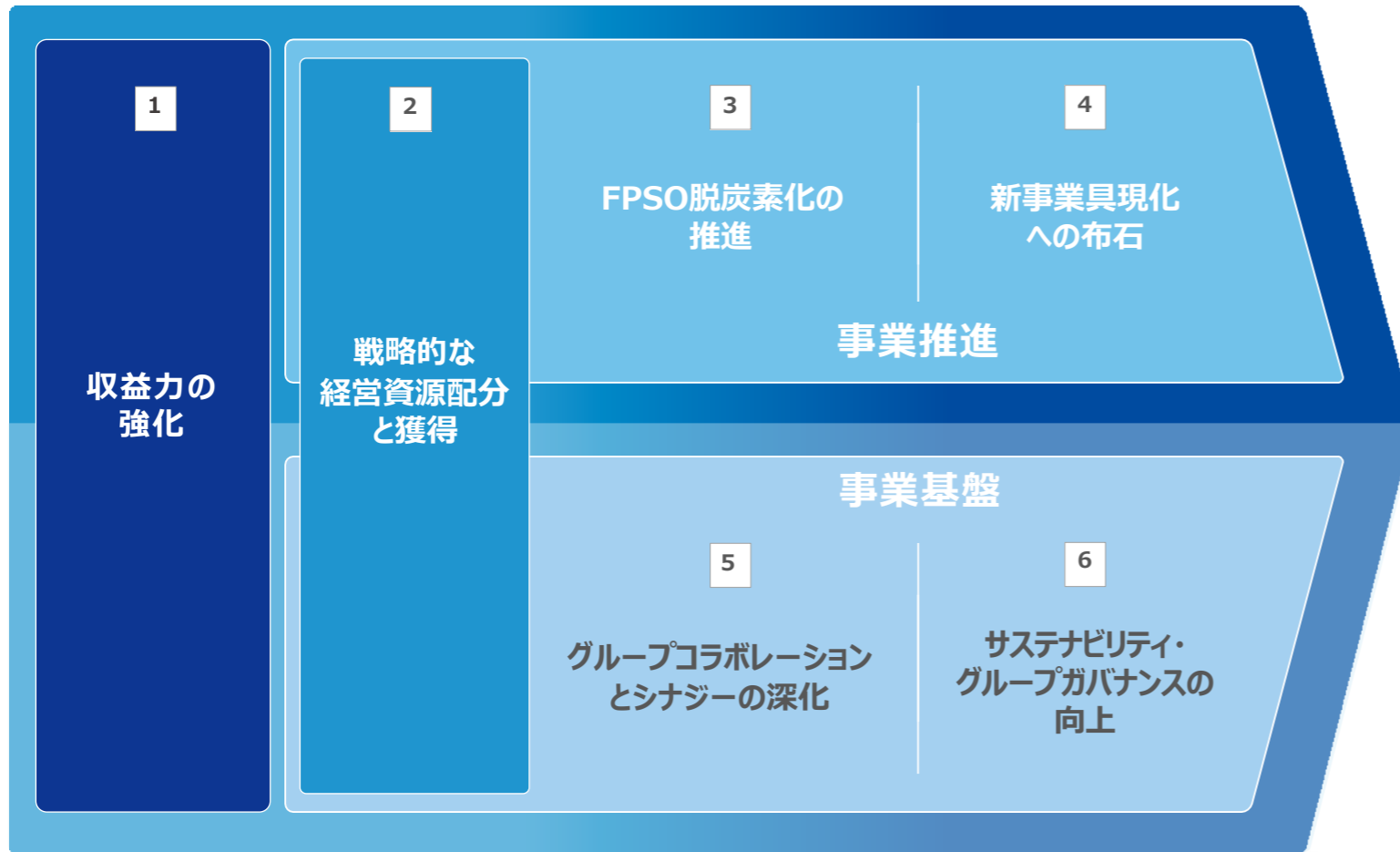
大水深
30

超大水深
42

中期経営計画 2024 – 2026 の推移 / 業績予想

MTP 2024 - 2026

"イノベーションで持続可能な未来を拓く"



FPSO

世界初のGTCC(*)搭載
FPSOの操業開始



浮体式洋上風力

15MWクラス以上の
デモプラント開発



主要アクション・
成果物

ビジョン
2034

デジタル・ソリューション

革新的ソリューションを開発し、
顧客向けの外販ビジネスを拡大



代替エネルギー

浮体式代替エネルギー生産設備のコン
セプト・デザインの完成



* ガスタービン・コンバインドサイクル発電機

中期経営計画の推移

中期経営計画 2024-2026 推移/非財務KPI

✓ 各種取組みの効果により、中期経営計画策定時の想定を大きく上回って収益力の向上に寄与。

	重点項目	中計期間目標 (2024 - 2026)	中計1年目実績 (2024年度実績)
経営基盤	① 収益力の強化	◆チャーター案件のアセット・インテグリティ向上と、EPCI案件の着実な履行と新規受注確保をベースとした、業界トッププレイヤーとしての卓越した事業運営による、安定した利益とキャッシュを創出	<ul style="list-style-type: none"> ✓2024年に純利益：USD 220mil、調整後EBITDA：USD 328milを達成、2026年目標値を上方修正。 ✓Sangomar FPSO - 原油生産を開始 ✓3つの大型建造工事案件（Bacalhau、UaruおよびRaia）の順調な進捗 ✓近年集中的に取り組んできた保守・修繕工事の実施により既存船の操業が大きく改善、最高益を達成
	② 戦略的な経営資源配分と獲得	◆「FPSO事業の価値向上」、「新事業」、「人的資本」を強化すべく、上記①で得た資金の積極的活用	<ul style="list-style-type: none"> ✓戦略的議論を開始。顧客からの期待、投資家の当社への見方、マーケット、気候変動対応等外部環境を踏まえた事業環境を踏まえた試算等を実施
事業推進	③ FPSO脱炭素化の推進	◆継続的なFPSOの炭素排出原単位削減の取組みに加え、“Target Zero” FPSOの実現を目指し、温室効果ガスの抜本的な削減に向けた取組みを加速	<ul style="list-style-type: none"> ✓TLP方式の浮体式洋上風力設備に関する基本設計承認を日本海事協会から取得 ✓Bacalhau FPSO - 環境負荷軽減認証を取得 ✓カーボンキャプチャーのパイロット・プロジェクトのFEED契約発注
	④ 新事業具現化への布石	<ul style="list-style-type: none"> ◆「浮体式洋上風力」、「代替エネルギー」、「デジタル」分野での事業化に向けた取組みを推進 ◆イノベーションの文化を浸透させ、浮体技術およびデジタル・ソリューションを活用した新事業の開拓・育成にもより一層注力 	<ul style="list-style-type: none"> ✓TLP方式の浮体式洋上風力設備の基本設計承認を日本海事協会より取得 ✓ブルーアンモニアFPSOの基本設計承認をABSより取得

中期経営計画の推移

中期経営計画 2024-2026 推移/非財務KPI

✓ 各種取組みの効果により、中期経営計画策定時の想定を大きく上回って収益力の向上に寄与。

重点項目	中計期間目標 (2024 - 2026)	中計1年目実績 (2024年度実績)
⑤ グループコラボレーションとシナジーの深化	<ul style="list-style-type: none"> ◆ビジネスプロセスの標準化やデジタルを活用したマネジメントシステムの導入促進 ◆企業の礎となる人財の強化を図る人的資本経営の推進を軸に、グローバルに展開するグループでの相乗効果の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ✓デジタルを活用したグループ共通のマネジメントツール導入推進 ✓人的資本経営の更なる推進に向けた人材戦略策定推進
⑥ サステナビリティ・グループガバナンスの向上	◆グループ横断でサステナビリティ課題に取り組むとともに、「安全と人権」への更なる取組みを強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓サステナビリティ委員会内に「気候変動」、「人権」、「人的資本/ダイバーシティ」のワーキンググループを立ち上げ ✓GHG削減に関する取組みについて、GHG排出量の開示対象を拡大 ✓人権に関するプログラム導入に向けてコンサルを起用 ✓2025年6月統合報告書発行予定

事業基盤

2025年12月期 業績予想

2025年12月期 通期業績予想

- ✓ 売上収益は主にEPCI事業からの収入減により、前年度比減少する見込み（Bacalhauが完工を迎え、Uaruの建造工事が終盤にさしかかる）
- ✓ 利益面は主にEPCI事業からの利益増により、前年度比増加する見込み

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減 (百万米ドル)
売上収益	4,186	3,700	▲486
営業利益	322	410	+ 88
税引前利益	307	420	+ 113
親会社の所有者に 帰属する当期利益	220	270	+ 50

中期経営計画 2024-2026 財務目標再設定

- ✓ 2024年2月14日に発表した、中期経営計画2024-2026年の最終年度である2026年12月期の財務目標について、下記のとおり再設定
- ✓ (1) 操業中の浮体式石油生産貯蔵積出設備（FPSO）において、これまで実施してきた大規模修繕や損益改善の諸施策の効果により想定以上の採算向上が図れていることや、(2) FPSO建造工事におけるスケジュールおよびコストの徹底した管理により損益改善を見込むことを踏まえ、中期経営計画の2026年12月期の財務目標を再設定

	中期経営計画2024-2026		
	FY2023 (実績)	FY2024 (実績)	FY2026 (目標)
純利益(*1)	96	220	175 → 300
自己資本利益率 (ROE)	10.7%	20.3%	12.0% → 20.0%
PBR	1.1	1.2	> 1.0
調整後 EBITDA (*2)	218	328	300 → 450

(百万米ドル)

* 1 親会社の所有者に帰属する当期利益

* 2 一過性損益調整前

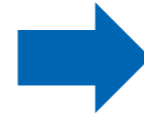
2025年12月期 株主還元

2024年度 期末配当

- ✓ 2024年度の期末配当については、1株当たり30円から50円に増額することを本定時株主総会へ上程予定

前回公表金額

中間配当：30円
期末配当：30円



今回公表金額

中間配当：30円
期末配当：**50円（予定）**

2025年度 配当予想

- ✓ 2025年度の配当については、1株当たり40円増額、120円を予定

2024年度

中間配当：30円（実績）
期末配当：**50円（予定）**



2025年度

中間配当：**60円（予定）**
期末配当：**60円（予定）**



OCEAN IS FULL OF POTENTIAL